

令和7年度 学校運営評価(自己評価)

令和8年1月実施

実施対象者:7名(うち回答者7名)

評価基準:1.不十分である ～ 4.十分達成できている の4段階評価

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R6	R7
1 教育理念・目的・目標	1)法的整合性と独自性	自養成所の教育上の特色を示し、かつそれは法との整合性がある	3.1	3.7
	2)教育理念・教育目的の意義と周知	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっている	3.0	3.3
	3)看護専門職についての考え方	看護専門職としての専門性、自律性、倫理性、判断力、実践力についての考え方を明らかにしている	3.2	3.3
	4)看護教育についての考え方	育成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容、教育方法、教育環境を整えようとしているのかについて述べている	3.1	3.6
	5)学習・教育観と学生観	看護、看護学教育、学生観について、教師の教育活動の指針になるように明示され、実際に指針となっている	2.7	3.1
	6)教育理念・教育目的の評価	卒業時点において育成する看護師等がどのような資質を有しているのかが明示され、その資質が、社会に対する看護の質を保障するのに妥当である	2.8	3.3
2 教育課程目標	1)教育理念・教育目的との一貫性	教育理念・教育目的と教育目標が一貫している	3.4	3.6
	2)目標内容の側面と到達レベルの側面	教育目標は、設定した教育内容を網羅し、かつ最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとして示している	3.1	3.6
	3)設定意図とその明確性、実現可能性	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長発達を促すための側面から教育目標を設定している	3.0	3.4
	4)教育目標の評価	教育目標において、目標内容と到達レベルが対応し、具体的で実現可能な目標として明示している	3.0	3.6
	5)継続教育との関連	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として、教育目標を設定している	3.0	3.6
3 教育課程経営	1)教育課程経営者の活動	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価の関連性を明確に持ち、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	2.8	3.1
	2)教育課程編成の考え方とその具体的な構成	教育課程は、看護学の内容、求める学修の到達および学生の成長発達について明確な考え方と根拠をもって編成している	2.8	3.4
	3)教育内容の階層的関連性とその配分の考え方	基礎分野、専門基礎分野、専門分野についての考え方と各分野の具体的な内容をどのようなものとするかその考え方が明示している	3.0	3.6
	4)科目単元構成	科目構成、単元構成の考え方と根拠を明確にして構成され、その考え方は教育理念・目的、教育目標との整合性をもち、構成された科目は看護実践者を育成するのに妥当であり、かつ養成所の特色を表している	2.8	3.3
	5)教育計画	単位履修の方法とその制約が教師・学生の双方がわかるように明示し、その方法が学生の単位履修の支援となっている	3.0	3.6

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R6	R7
	2/教育計画	科目の配列は、単位履修と看護実践者になるために養成所が設定したその質を維持して修得できるような配列になっている	2.8	3.1

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R6	R7
3 教育課程経営	6)教育課程評価の体系	単位認定の基準(設定)および方法において、看護専門職に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、また、妥当である	3.2	3.4
		他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	3.2	3.7
		教育課程を評価する体系が整っており、また、結果の活用においての倫理的規定が明確になっている	3.1	3.1
	7)教員の教育・研究活動の充実	担当科目や担当時間数の関連から、教員の専門性が活かされ、授業準備に関する時間が保障され教員の専門性を教授できる体制を整えている	2.2	2.4
		教育課程の運営の実践者である教員が自ら成長できるための相互研鑽、自己研鑽のシステムを整えている	2.4	2.9
		研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるか	1.9	2.0
		教員の研究活動は保障(時間的、財政的、環境的)されているか	1.9	2.1
	8)学生の看護実践体験の保障	臨地実習施設は、養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解し、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている	3.0	3.1
		臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員がそれぞれの役割を明確にし、協働体制を整えている	2.9	3.0
		学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、学生への指導を計画的にしている	3.2	3.3
		臨地実習における学生が関係する事故を把握、分析し、安全教育、安全対策を計画的にしている	3.2	3.6
4 教授・学習・評価過程	1)授業内容と教育課程との一貫性	教授・学習・評価過程における授業内容は、養成所の教育理念・教育目標との一貫性を常に意識して授業内容を設定している	3.3	3.6
	2)看護学としての妥当性	教育内容は、看護学を構成する科目や単元、当該授業の意図にそった教育内容となっている	3.3	3.6
	3)授業内容間の関連と発展	当該授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容のまとまりとして考えているか	3.4	3.6
		授業内容のまとまりづくりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べているか	3.2	3.7
		授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある内容となっているか	3.1	3.6
		当該授業内容と他の授業内容との関連において、重複や整合性、発展性などについて明確になっているか	2.8	3.1
	4)授業の展開過程	履修形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容のまとまりづくりに応じた形態を選択しているか	3.1	3.3
		授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践しているか	2.7	3.7
		当該授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援しているか	2.8	3.6

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R6	R7
		学生に対し効果的な教育指導を行うにあたり、教員間でどのような協力体制で行っているか	2.8	3.6
4 教授・学習・評価過程	5)学習への動機付けと支援	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性をもって、学生の学習への動機付けと支援になっているか	2.9	3.4
		シラバスは、授業内容がどのような意図で、どのような内容として設定されているかなど、学生が理解しやすいように、また、興味関心を持てるように、具体的に記述されている	2.9	3.1
	6)授業評価とフィードバック	評価と指導の表裏一体性を踏まえた評価計画が立案・実施され、評価結果は、実際に授業が改善されているか	2.7	3.1
		可能な限り、学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れ、目標の達成状況を明確に捉えているか	2.9	3.3
		評価の方法について、特に単位認定のための評価については、学生に公表(認定基準等)し、公平性があるか	3.1	3.6
5 経営・管理過程	1)設置者の意思・指針	養成所の設置、教育理念、教育目的、教育課程運営、教育評価、および養成所の管理運営に関する管理者の考え方を、設置者の意思との一貫性を持って明示し、かつ教職員は理解しているか	2.7	3.1
	2)組織体制	組織体制は養成所の教育理念・目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確であり、かつ組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるように整えているか	2.4	3.3
		組織の構成と教職員の任用、及び、教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・目的を達成するために整合性を持っているか	2.3	3.0
	3) 財政基盤	養成所の財政基盤をどのように確保しようとしているかについて明確な考え方をもち、学習・教育の質の維持・向上につながるようになっているか	2.9	3.3
		教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解し、それぞれの観点から財政についての意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか	2.7	2.0
	4)施設設備の整備	学習・教育環境について、管理者としてどのような考え方をもち整備しようとしているかを示し、その考え方に基づいて整備計画を立案し、実施しているか	3.1	3.0
		看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備し、また、医療・看護の発展や学生層の変化にあわせて、整備・改善できるようになっているか	3.1	3.4
5 経営・管理過程	5)学生生活の支援	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか	3.0	3.6
	6)養成所に関する情報提供	教育・学習活動に関する関係者への情報提供を行うことによって、その協力・支援を得ているか	3.0	3.4
		広報活動は、看護専門職を育成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか	3.3	3.7
	7)自己点検・自己評価体制	自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確に持っているか	3.0	3.6
		養成所の自己点検・評価体制を整え、運用し、その機能を養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、養成所の教育理念、目的、目標を維持・改善しているか	3.1	3.4
	1)入学者の選抜の考え方と教育理	教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を述べている	3.0	3.6

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R6	R7
6 入学	1) 入学意欲、教育目的との一貫性	入学時にどのような能力を重要視し、どのような選抜方法によって可能なのかが検討されている	2.9	3.3
	2) 選抜の公平性	入学者選抜は、準備、実施、採点、発表の過程において公平性が保たれている	3.4	3.9
6 入学	2) 選抜の公平性	入学試験問題の漏洩や採点における不平等が起これないよう管理上の工夫、徹底している	3.6	3.9
	3) 選抜方法の妥当性	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証しているか	3.3	3.6
		学生数は、演習や実習を行う上で適正である	3.2	3.7
	4) 入学希望者開拓への取り組み	従来の募集範囲や方法を維持するだけでなく、入学希望者本人、保護者、地域の高等学校、さらに全国に向けてそれぞれのニーズにあった方法で募集活動を積極的に行っている	3.2	3.9
		募集要項の作成、ホームページの作成、受験生への説明会への参加など、受験生募集の方針・内容・方法について、組織的、計画的に検討している	3.2	3.9
7 卒業・就業・進学	1) 進路選択状況と教育理念・教育目的との整合性	卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析した結果は、教育理念・教育目標と整合性があるか	3.1	3.1
		卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理し、教育理念、教育目標、授業の展開に活用しているか	2.7	3.1
	2) 進路選択状況と卒業後の活動状況の評価	卒業生の就職先での評価を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就職先との情報交換や調査の実施などができる体制が整っているか	2.7	3.3
		卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、それを計画的に行っているか	2.7	3.1
8 地域社会／国際交流	1) 地域社会への貢献	社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っているか	2.8	3.4
		養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っているか	2.7	3.4
	2) 地域社会における資源の活用	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れているか	2.9	3.4
	3) 国際交流のための体制	国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか	3.1	3.4
		国際的視野を広げるための自己学習システムが整っているか	2.4	3.0
		帰国学生の受け入れ体制があるか	2.8	3.6
		留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制があるか	2.6	3.3